令和４年度　教科専門試験　高等学校・特別支援学校（世界史）解答用紙【解答例】

受験校種	高・特	教科科目	世界史						得点	

１（８０点）

問１	イ	問２	ウ	問３	ア
	（４点）		（４点）		（４点）
問４	ウ	問５	ソリドゥス金貨	問６	郷挙里選
	（４点）		（４点）		（４点）
問７	ウ	問８	イ	問９	五代十国
	（４点）		（４点）		（４点）
問 10	メッカ	問 11	エ	問 12	マルタ島
	（４点）		（４点）		（４点）
問 13	シク教	問 14	メディチ家	問 15	エ
	（４点）		（４点）		（４点）
問 16	C				
	（４点）				

問 17	南部では、黒人奴隷を用いたプランテーションでの綿花やタバコ栽培がさかんで、イギリスに輸出する体制がとられていたため、自由貿易と奴隷制度の存続を求めた。

（８点）

問 18	エディソン	問 19	イ
	（４点）		（４点）

令和４年度　教科専門試験　高等学校（世界史）解答用紙【解答例】

受験校種	高	教科科目	世界史						得点	

２（３０点）

金の末裔である女真は複数の部族に分かれていたが、建州女真の一族長ヌルハチによって 16 世紀末に統一され、1616 年に後金が成立した。その子ホンタイジは、チャハル部を攻めて、元の印璽を手に入れ、内モンゴル諸部族を従え遊牧民族共通の大ハンとなり、1636 年国号を清と定め、さらに朝鮮を攻撃して服属させた。第３代順治帝の時、清軍は長城を挟んで明軍と対峙していたが、明の将軍である呉三桂が、李自成の乱による崇禎帝の自殺を受けて清に降伏し山海関の門を開いた。清軍は李自成の軍を破って北京に入城し、この地に遷都し、順治帝は中華皇帝の位を受け継いだ。第４代康熙帝は、1683 年台湾を支配していた鄭氏政権をくだして台湾への統治を強めていった。また、オイラト部の一部族ジュンガルが勢力を広げるようになると、ジュンガルとチベット仏教の保護者の座を争い、康熙帝自ら遠征してジュンガルを征討し、外モンゴルを従えた。北方では、黒龍江方面に進出していたロシアを駆逐しネルチンスク条約を結び国境を画定した。つづいて、雍正帝は、チベットへの支配を強め、ロシアとキャフタ条約を締結し、ネルチンスク条約で未定であった西部国境を画定した。乾隆帝の時代には、タリム盆地を支配していたジュンガルを滅ぼして東トルキスタン全域を占領し、これを新しい領土という意味で「新疆」と名付けた。これによって、清の領域は 18 世紀半ばに最大に達し、ユーラシア東部の大半をおおう広大な世界帝国となった。

令和４年度　教科専門試験　高等学校（世界史）解答用紙【解答例】

受験校種	高	教科科目	世界史						得点	

３（３０点）

　王政復古下のフランスでは、制限選挙制による立憲君主政がとられていたが、ルイ 18 世の次に即位したシャルル 10 世は、亡命貴族に多額の補償金を支払うなど反動的な政治を行う一方、国民の不満をそらすため、1830 年にアルジェリア出兵をおこなった。自由主義派の反発は強まり、国王が議会解散を企図したとき、七月革命がおこった。国王は亡命し、自由主義者のオルレアン公ルイ＝フィリップが新しい国王としてむかえられた。こうして成立した七月王政のもとでは、銀行家をはじめとする大資本家が支配的となり、産業革命がすすんだ。七月王政下のフランスでは、きびしい制限選挙に対する共和派や労働者の不満が強まった。1848 年、選挙法改正を要求する改革宴会をギゾー内閣が弾圧したことから二月革命が勃発し、ルイ＝フィリップは退位して第二共和政が成立した。共和政の臨時政府には、労働者の代表としてルイ＝ブランらの社会主義者も参加し、国立作業場を設置するなどの政策がとられた。しかし、臨時政府の内部では、資本家を代表する自由主義者と、労働者を代表する社会主義者との対立が深まった。男性普通選挙制により行われた四月選挙では、国民の多数を占める農民が自由主義者を支持したため、社会主義者は敗北した。これに失望したパリの労働者は六月蜂起をおこしたが、きびしく鎮圧され、政府は保守化していった。12 月の大統領選挙では、ナポレオンの甥であるルイ＝ナポレオンが、農民などの支持を得て当選した。彼は、1851 年のクーデタで独裁権をにぎり、翌年の人民投票で皇帝ナポレオン３世として即位した。

令和４年度　教科専門試験　高等学校（世界史）解答用紙【解答例】

受験校種	高	教科科目	世界史						得点	

４（１０点×４）

（１）

1952 年に発足したヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）の成功により、ヨーロッパ経済共同体（EEC）とヨーロッパ原子力共同体（EURATOM）の設置へと発展し、1967 年この３共同体が合併しヨーロッパ共同体（EC）となった。さらに 73 年イギリスが加盟し（拡大 EC）、その後アイルランド、スペイン、デンマーク、ギリシア、ポルトガルの加盟を経て、92 年にはマーストリヒト条約の調印によりヨーロッパ連合（EU）の成立に至った。

（２）

イラン系シーア派のイスラーム王朝。946 年バグダードに入城し、アッバース朝のカリフから大アミールに任じられるとともに、カリフに変わってイスラーム法を施行する権限を与えられた。土地の徴税権を軍人に与え、各人の俸給にみあう金額を、直接、農民や都市民から徴税させるイクター制を始めた。

（３）

1555 年に成立した宗教和議で、これにより、シュマルカルデン戦争に発展していたルター派諸侯や都市と神聖ローマ皇帝との争いの妥協が成立した。これによってルター派は公認されたが、宗派を選ぶ権利が認められたのは諸侯と自由都市だけで、個人の信仰の自由やカルヴァン派の権利が認められたわけではなかった。

（４）

イギリス帝国主義の推進者であったセシル＝ローズの風刺画である。ケープ植民地の首相をつとめたセシル＝ローズは、金やダイヤモンドを産出するオランダ系ブール人のオレンジ自由国とトランスヴァール共和国の併合を画策し、南アフリカ戦争を起こした。この風刺画のセシル＝ローズの両足は、エジプトと南アフリカを踏んでおり、イギリスが展開していたアフリカ縦断政策を表している。

令和４年度　教科専門試験　高等学校・特別支援学校（世界史）解答用紙【解答例】

受験校種	高・特	教科科目	世界史						得点	

５（２０点）

【単元（題材）の主題】

唐を中心とした東アジアの国際秩序はどのようなものだったのか。また、日本への影響は何か。

【授業の展開例】

○　本時のねらい

（１）唐が、日本をはじめ周辺国と構築した国際秩序を理解させ、中華王朝が周辺諸国に与えた影響について考察させる。

（２）唐の時代は交易や文化交流も盛んに行われ、国際色豊かな王朝であったことに気付かせる。

（３）遣唐使の活動や正倉院の遺物を示しながら、中国との関係が日本の国家形成にどのような影響を与えているかを考察させる。

○　指導上の留意点

（１）資料を提示し、生徒の問いや疑問を表現させることで課題意識を引き出し、問いに対する予想（仮説）を考察することで学習の見通しを持たせる。

（２）ICT を活用して生徒の意見を全体で共有し、議論する活動など、対話的な学習場面をつくる。

○　具体的な展開例

（１）導入

ア　周辺諸国と唐の関わりを読み取る資料を提示し、問いや疑問を表現させる。

イ　周辺諸国ごとに唐との関わり方に違いがあることに気付かせ、その理由について予想させる。

（２）展開

ア　「唐は近隣諸国にどのように接していただろうか」を問いとして設定し、班別に唐と近隣諸国の関わり方について調査させ、その結果を分類しながら東アジアにおける国際秩序を理解させる。

イ　「中国と近隣諸国との関係に、このような違いがうまれたのはなぜか」を問いとして設定し、班で話し合いながらその理由を考察させ、全体での発表を行い、その内容について議論させる。

ウ　遣隋使や遣唐使の活動、正倉院の遺物を紹介し、日本は、国家形成において中国の文化や制度を積極的に導入していることに気付かせる。

（３）まとめ

「あなたは、日本が国家形成にあたって唐に学んだことで最も重要だったことは何だと考えるか。」を問いとして、本時の学習を「日本の国家形成」という視点から振り返る。